

## 令和元年度事業報告書

平成31年 4月 1日から 令和2年 3月31日まで

特定非営利活動法人だっぴ

## 1 事業実施の成果

別紙のとおり

## 2 事業の実施に関する事項

## (1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の 人数	受益対象者の 範囲及び人数	支出額 (円)
若者の人材育成と社会、働き方、生き方を考えるための交流会事業	中学生・大学生・地域の大人の多世代交流事業	年21回	各中学校・高校	3名	中高生、大学生、社会人 合計 2,767名	12,560,973
進路や働き方に悩む若者が自分らしい一歩を踏み出すための企画・実施事業	若者と地域の大人の交流事業	2月24日 年13回	国際交流センター 赤磐市	2名	大学生、社会人 合計 235名	3,083,841
活動内容を広く知らしめ、啓蒙するための啓発事業	講演・研修等	通年	依頼のあった事業所	1名	大学生、社会人 合計 約300名	261,509
その他、本法人の目的を達成するために必要な事業	災害支援事業	9月20日	倉敷市立菌小学校	2名	小学生、大学生、社会人 合計 96名	510,200

## (2) その他の事業

なし

## 2019 年度を振り返って

私たちの活動は、年々依頼数が増え、2019 年度は鳥取県でも高校生向けのだっぴを実施したほか、そのノウハウの提供依頼も増えています。また、県内での中学生や高校生を対象とした地域の大人との交流機会としては、継続依頼と新規依頼により 12 市町村・21 ヶ所まで増加してきました。そのような中、2019 年度は、活動ノウハウを地域の担い手の方たちと共に育て、広げていくための準備とチャレンジの一年だったとも言えます。

私たちの活動が求められる理由としては、大きく二つあると思います。一つは、活動当初から掲げてきた“若者たちの自己肯定感向上など、個々の成長や支援が必要とされていること”、そして二つ目は、“東京一極集中による地方の人口減などの差し迫った課題への対応が各地域で強く求められていること”です。いずれも大切に緊急な課題だと思えますが、それが多くの若者、多くの地域に変わらず存在しているからこそ、私たちのような活動が求められているのだとも言えます。

2019 年度、活動に関わってくれたボランティアの大学生たちは延べ 500 人を超え、参加した中学生は 1281 人、高校生は 248 人、その若者たちと交流した地域の大人は 732 人を数えました。普段交流することの少ない、世代を超えた交流は、参加した若者たちに様々な気づきと変化、そして地域への愛着度向上する結果が見られていました。

私たちはこの仕組みや機会を少しでも多くの地域に届け、定着させていくことを命題に掲げ、この冊子にあるような様々な活動を行いました。紙面に記載している人数などの数字は一部で、この数字に見えない、多くの方が活動を支え、支援をしてくださっていることにも変わらず感謝をしています。

私たちだけではやらない、地域と共に形を柔軟に変えながら共に作っていく、2019 年度はそのための準備でしたが、2020 年度からは一つずつ形にしていくステージに入ります。新型コロナウイルスなど不透明なことも多くありますが、思考を止めず、私たちが出来ることを丁寧に継続していきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

私たちの挑戦を、皆さんとの挑戦にしたい。  
どうか、引き続きよろしくお願い致します。

NPO 法人だっぴ  
代表理事 柏原拓史

## 各事業の運営に関して

### 1. 中学生・高校生だっぴ

中高生×大学生(世代)×大人の三者がフラットな関係での対話を通して、お互いの経験や価値観などを共有するプログラム。中高生の自信や未来への期待、地域社会に関する当事者意識を高める。

目標	成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>中高生が自分と違う意見を認め、自己表現することへの自信をもつ</li> <li>中高生の地域や社会への当事者意識を高める</li> <li>中高生が大人に対するイメージを再構築し、未来への希望をもつ</li> <li>大学生が地域参画の機会を通して、成長する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中高生の自己肯定感や自己効力感を高めることができた。</li> <li>中高生の大人に対するイメージを再構築し、将来への期待を向上することができた。</li> <li>中高生や大学生の地域社会に対する当事者意識を高めることができた。</li> <li>ノウハウ移転によって中学生だっぴの継続可能性を高めることができた。</li> </ul>

#### 実績

#### 実施校・参加者一覧

実施日	名称	会場	参加者数			
			中学生	高校生	キャスト	大人
6/22	岡山県立津山東高校生だっぴ	津山東高校		93	37	52
8/24	倉敷市立庄中学生だっぴ	庄中学校	89		50	60
8/25	備前市中学生だっぴ	備前市市民センター	23		14	19
8/28	赤磐市立吉井中学生だっぴ	赤磐市吉井会館	68		23	33
9/12	鳥取県立青谷高校生だっぴ	青谷高校		85	39	46
10/9	岡山大学教育学部附属中学生だっぴ	岡山大学教育学部附属中学校	175		52	41
10/19	和気町立佐伯中学生だっぴ	佐伯中学校	45	13	17	32
11/1	赤磐市立赤坂中学生だっぴ	赤坂中学校	28		14	14
11/9	岡山市立旭東中学生だっぴ	旭東中学校	305			76
11/9	西粟倉村立西粟倉中学生だっぴ	西粟倉中学校	36		17	20
11/10	美咲町中学生だっぴ	中央中学校	15		8	12
11/20	備前市立片上高校生だっぴ	片上高校		14	7	9
12/7	玉野市立荘内中学生だっぴ	荘内中学校	97		28	65
12/11	岡山市立建部中学生だっぴ	建部町文化センター	26		14	14
12/14	玉野市立玉中学生だっぴ	すこやかセンター	38		15	28
12/15	高梁市中学生だっぴ	高梁総合文化会館	20	5	14	14
1/11	早島町立早島中学生だっぴ	早島中学校	114		53	61
1/18	岡山市立岡山中央中学生だっぴ	岡山中央中学校	122		60	60
2/13	津山市立勝北中学生だっぴ	勝北中学校	47		15	28
2/14	玉野市立日比中学生だっぴ	玉野市生涯学習センター	33		14	20
2/22	美作高校生だっぴ	美作高校		38	15	28
計			1281	248	506	732

### ノウハウ移転について

岡山市建部・備前市・久米南町にて中学生だっぴのノウハウ移転を実施。各地域に、たけべ中学生だっぴ実行委員会（建部）、NPO 法人 f.saloon（備前市）、NPO 法人らんたん（久米南町）が今後のコーディネーター主体となれるよう伴走した。

※久米南町についてはコロナウイルス感染拡大の影響で当日の実施は見送りとなった

また、西粟倉村・高梁市・津山市・岡山中央中学校でも独自の取り組みを始めた。西粟倉村では、中学生がだっぴをつくる実行委員形式で一般社団法人 Nest と協働実施。高梁市では吉備国際大学の大学生、津山市では美作大学の大学生がだっぴをつくる形式で取り組んだ。岡山中央中学校では、学校支援ボランティアで学校に入っている大学生がコーディネーターとしての役割をもつチャレンジを始めた。

### 効果検証について

荒木淳子教授（産業能率大学情報マネジメント学部）ら協力のもと、学術的なアンケート項目を作成し、中学生の事前事後の変化を分析した。検証項目としては、高橋美保教授（東京大学教育学研究科）が開発した「ライフキャリアレジリエンス尺度」および「Rosenberg 自尊感情尺度」「地域愛着（感情）」の3点で分析、評価した。

#### ■ ライフキャリアレジリエンス尺度

仕事以外の充実を求める多面的項目については天井効果の可能性もあり変化が見られなかったが、それ以外の「キャリアに対する長期的な展望」「継続的な対処の力」「楽観的な思考」「現実受容力」は有意に上昇し、困難な状況に出会ってもそこから回復・適応していく力が高まっていることが分かった。

#### ■ 自尊感情尺度&地域愛着（感情）

ともに事後で有意に上昇していた。





### 課題・展望

中学生だっぴをそれぞれの地域で継続すべく、「この地域だからこそできる」かたちをその地域の人たちと模索していった。各地域でコーディネーターと協働することで、地域の面白い大人の参画が促進された。今後は、そうした大人たちも巻き込みながら、中学生だっぴ後の活動づくりにも注力していきたい。資金調達についてはそれぞれの地域ごとに別々の課題が残る。市町村ごとでだっぴの寄付を募集するなど、それぞれの地域でファンドレイジングの方策を実験していく。

## 2. だっぴ 50×50

これからの担う若者と様々な世界で活躍する大人の交流機会をつくることで、学生が多様な生き方や働き方を学ぶ。

目標	成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 若者が地域の大人と出会うことで、広い視野で主体的に進路選択できるようになることを目指す。</li> <li>・ 地域の様々な課題に対しても主体的に取り組み、解決する若者を増やしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実行委員として参画した大学生の主体性や行動力を育むことができた。</li> <li>・ 岡山の様々な大人と大学生をつなぐことで、新たな関係性の構築や若者の次の一歩を支援することができた。</li> </ul>
実績	
<p>日時 2020年2月24日(月)</p> <p>会場 国際交流センター</p> <p>参加者 大学生41名、キャスト25名、大人47名</p> <p>企画運営において大学生がより主体性をもてるような「自分たちで考えて行動する」環境をつくるかたちで実施したことによって、学生たちが能動的に活動していた。また、若者の申込は定員に対して1.5倍以上集まり、若者と地域の大人をつなぐイベントとしての認知の高まりを感じた。コロナウイルスの影響もあり、安全対策を行い実施したが、当日の欠席者も少なかった。</p>	
	
<p><b>助成</b></p> <p>岡山市 ESD 活動支援助成</p>	
課題・展望	
<p>大学生の社会参加の機会として有用であると考え。大学生メンバーだけでチームビルディングをスムーズに行うことは難しいので、その過程を学ぶという意味でもスタッフの伴走が重要である。急務ではないが、伴走者の育成や増員も今後必要になるだろう。</p> <p>収益事業というよりは、組織のDNAを継承していく活動として、大学生主体（スタッフ伴走）のかたちで継続していく。</p>	

### 3. テーマだっぴ

テーマを絞った「若者×大人」の交流機会。教育の道を志す学生と教育に関する様々な世界で活躍する大人が、多様な教育観を学び合う「教育×だっぴ」や、岡山の企業人と“働く”について考えることを通して、学生が自分の働き方について視野を広げて考える「働く×だっぴ」を実施。

目標	成果
<p>(教育×だっぴ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育の道を志す学生が教育の世界の選択肢をより多く得る。</li> <li>・ 多様な教育観と向き合い、教育へ関わる熱量を高める。</li> </ul> <p>(働く×だっぴ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生が自分の働き方について考え、働くイメージをより鮮明にすることができる。</li> <li>・ 多様な働き方に会うことで、学生が自分の視野を広げることができる。</li> </ul>	<p>(教育×だっぴ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生が様々な教育の働き方を知る機会になった。</li> <li>・ 参加者が多様な教育観を理解し、自分なりの教育の軸を見つけようとするきっかけの場にすることができた。</li> </ul> <p>(働く×だっぴ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生が自分の働くイメージをより鮮明に持つことができた。</li> <li>・ 学生の岡山の企業への興味関心を高めることができた。</li> </ul>

#### 実績

#### 実施イベント・参加者一覧

教育×だっぴ						
実施日	イベント名	会場	参加者数			
			高校生	大学生	ゲスト数	キャスト
2/9	教育×だっぴin岡山大学	岡山大学	4	33	24	
働く×だっぴ						
実施日	イベント名	会場	参加者数			
			高校生	大学生	ゲスト数	キャスト
9/22	働く×だっぴ	ハッシュタグ		22	14	



#### 課題・展望

教育×だっぴは岡山大学教育学部連携して実施。働く×だっぴは自主開催とした。教育×だっぴでは、教員養成課程において、多様な教育関係者との対話・つながりづくりに価値を感じた。働く×だっぴでは、人を通して岡山の企業を知る機会としての有用性もあった。どちらの機会も、実社会への接続を狙いに社会構造やそこで働く人の価値観などを理解する深い対話が必要であると感じた。

#### 4. ぶちだっぴ

だっぴを通して、「もっとこんな大人に会ってみたい!」という思いをもった大学生が、自分たちの場を自分たちでつくる。また、だっぴの活動に興味のある人たちがお試的に参加できる機会。

目標	成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>中学生だっぴなどの活動に参加する人を集めるための入口として機能する。</li> <li>大学生が自ら場を作る経験をし、成長する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ぶちだっぴへの参加から中学生だっぴへ参加につながった。</li> <li>企画した大学生の主体性や行動力を育むことができた。</li> </ul>

#### 実績

##### 実施イベント・参加者一覧

実施日	イベント名	会場	参加者数			
			大学生	高校生	中学生	大人
4/16	ぶちだっぴ	NPO法人だっぴ事務所	6			
4/28	きらきら大学生だっぴ	NPOセンター会議室	6			
5/12	まんがだっぴ	NPO法人だっぴ事務所	3		1	
6/12	ネガティブって悪いこと?	NPO法人だっぴ事務所	5			1
7/14	「ふくし」ってなんだろう?	NPOセンター会議室	6			4
8/14	校長先生だっぴ	IPU環太平洋大学駅前キャンパス	23			14
9/1	ぶちだっぴ	NPO法人だっぴ事務所	1			4
10/13	SDGsだっぴ	NPO法人だっぴ事務所	4			2
11/16	It's happy snack time!!	NPO法人だっぴ事務所	4			2
12/8	留学生×だっぴ	NPO法人だっぴ事務所	6			2
1/5	ぶちだっぴ	NPO法人だっぴ事務所	2			4
2/14	ぶちだっぴ	NPO法人だっぴ事務所	4			4
3/18	ファッション・ライフスタイルだっぴ	NPO法人だっぴ事務所	3			1
計			73		1	38





#### 課題・展望

上半期はインターン生を中心に、下半期は主に大学生を公募する形で企画運営を行った。また、校長先生だっぴでは、岡山県内の学校管理職者にだっぴを体験してもらうことができた。今後も、大学生の「やってみたい」を実現する場として機能するとともに、外部を巻き込み、幅広い層でのだっぴの認知を高めていきたい。その際、イベントの質を保てるよう気を付けて、大学生に伴走していく必要がある。また、参加者(社会人)に対して、寄付の呼びかけも行っていく。

## 5. 生き方百科

だっぴ参加後の中学生・高校生がさらなるキャリア探究を行えるよう、岡山の大人の生き方・働き方を見える化した冊子を配布する。

目標	成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>中学生だっぴ後、中高生・大学生の社会参画を促進する。</li> <li>中高生・大学生のキャリア観や社会観を広げる。</li> <li>学校教育と社会教育の連携を強化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中高生が様々な大人の生き方・働き方のロールモデルを知ること、キャリア観の広がりやそれに類する気づきを得られることや将来に対する探究心の向上につながる。</li> <li>学校と社会の接続可能性として、学校教員からのリアクションも良い反応が多く、ニーズの高さが確認できた。</li> </ul>
実績	
<p>1. 冊子作成 岡山の大人の働き方・生き方を取材し、『生き方百科 2019』として冊子にまとめる。</p> <p>2. 冊子配布 『生き方百科 2019』を「中学生・高校生だっぴ（中高生・大学生・大人の対話プログラム）」に参加した中高生に対して、参加後に配布する。</p> <p>時期：年度内に1回（各中学生・高校生だっぴの時期に合わせて） 対象：①「中学生・高校生だっぴ」に参加した岡山県内の中高生 ②NPO 法人だっぴの活動に関わる大学生 配布地域：i) 岡山市、倉敷市、赤磐市、備前市、津山市、玉野市、久米南町、早島町、美咲町、和気町の中学校・高校 ii) 岡山県内の大学 配布人数：1,500人</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="188 1532 248 1576" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">助成</div> <div data-bbox="948 1361 1059 1563" style="text-align: center;">  <p style="font-size: small;">Journey LIFE &amp; WORK</p> </div> <div data-bbox="1145 1196 1439 1594">  </div> </div> <p>平成 31 年度社会教育館関係団体による地域パワーアップ事業(岡山県生涯学習課)</p>	
課題・展望	
<p>中学生ヒアリングでは「紙媒体と WEB の両方あったほうがよい」という意見もあり、WEB 媒体へ転換を検討する。また、この生き方百科が、地域と学校をつなぐハブの機能をもつことができれば、学校教員の役に立てるのではないかと考え、ターゲットを中高生・大学生に加えて、学校教員も想定する。</p> <p>また、今回は岡山の企業人にフォーカスして記事を掲載したが、今後はその対象を広げ、岡山の様々な人材の記事によって見える化することが重要だと考える。</p>	



## 6. 赤磐市若者まちづくり推進事業

赤磐市協働推進課の委託事業。赤磐市の若者がまちづくり活動に参画できる機会の創出と、協働事業に応募した市民活動プロジェクトの伴走を行う。

目標	成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>赤磐市に関わりのある若者がまちづくりに参画しやすくなる土壌をつくる。</li> <li>協働事業に採択されたプロジェクトの伴走を行い、その活動を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>赤磐のまちづくり・市民活動のプレイヤーを多方面で発掘することができた。</li> <li>まちづくり活動に参加したい若者とのつながりをつくることができた。</li> </ul>

### 実績

#### 実施イベント・参加者一覧

実施日	名称	会場	参加者数
8/10	バズれ赤磐若者交流会	いきいき交流センター	12
9/28	あかいわカフェ	熊山英国庭園	12
10/17	スタディツアー（川崎牧場編）	川崎牧場	6
11/2	スタディツアー（川崎牧場編）	川崎牧場	6
11/17	スタディツアー（R.AREAS MARKET編）	R.AREAS MARKET	7
11/18	スタディツアー-after（R.AREAS MARKET編）	R.AREAS MARKET	1
11/27	スタディツアー（パイボン畑編）	パイボン畑	1
1/26	あかいわカフェ	momotose	17
1/26	古民家を考える会	笹岡公民館	7
2/1	川崎牧場お花見MTG	川崎牧場	3
2/8	あかいわカフェ	サンデー	16
2/24	川崎牧場お花見MTG	川崎牧場	9
2/29	あかいわカフェExtra	赤磐市立中央図書館	25



### 課題・展望

赤磐市の若者のやりたいことを実際にプロジェクト化する段階までには至らなかったものの、いくつかの関わりしろとまちづくりに関心のある若者を発掘することはできた。そうした若者の人たちに赤磐市で行う中学生だっぴにも関わってもらえるよう取り計らっていく。

## 7. 大学連携

岡山大学では「キャリアデザインII（第2・第4学期）」の授業を担当。受講生は中学生・高校生だっぴのキャストとして参加する。川崎医療福祉大学ではファシリテーションの特別授業を1コマもらい、その後受講生が庄中学生だっぴのキャストとして参加した。

## 8. 講演講師・研修

倉敷市地域支援学校本部や商業高校教頭会などで講演。研修は行政職員対象のファシリテーション研修を美咲町役場と津山市役所で実施。受講職員は実践として中学生・高校生だっぴのキャストとして参加した。

## 9. イベント等企画コラボ

場づくりのスキルを活かし、他団体とコラボ。

### 実績一覧

- ・ 若松園×だっぴ（コントワールド）
- ・ コノユビトマレ合宿（備中志事人）
- ・ コノユビトマレ合宿@勝央町（勝央町教育委員会）
- ・ 中国ブロックネットワークアクション2019（岡山県スポーツ協会）
- ・ 青少年健全育成座談会（備前県民局）
- ・ 教員免許更新講習（IPU 環太平洋大学）
- ・ 福岡県久山町ワークショップ（NPO 法人英田上山棚田団）
- ・ Learn from Education（岡山大学教育学部）
- ・ コーディネーターシンポジウム（岡山大学教育学部）※コロナウイルス対策のため中止

## 10. 中学生白書



2年目の発行。2018年度の中学生だっぴに参加した中学生のアンケートデータを集計して制作した。岡山の中学生の現状とだっぴの成果について普及啓発する。国立国会図書館と岡山県立図書館、岡山市立図書館に蔵書している。

## 11. 中学生・高校生だっぴサミット

コロナウイルス対策のため開催を延期。延期先は未定。

## 12. 菌小学校での場づくり（災害支援）

西日本豪雨災害の支援として、被災した小学生と大人の対話の場をつくる。

目標	成果
<p>菌小学校区は一昨年の豪雨災害を強く受けた地域で、子供たちの6割が被災している。その中で、以下を目標とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加した人全員が優しい気持ちになっている</li> <li>・ 子どもたちの前に向く、向かっている力を後押しする</li> <li>・ 地域の大人の方たちに元気になってもらう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子ども達が自らの言葉で語る様子と、それを優しく聞きながらご自身の気持ちや感情を正直に伝える地域の方達の交流を行えた。</li> <li>・ 優しさと強さが混ざる空間と時間であり、地域の復興に向けた力につながる交流の場となった。</li> </ul>
実績	
<p>日時 2019年9月20日（金）            会場 倉敷市立菌小学校            参加者 小学生46人、キャスト18人、大人32人            小学校で初めて行うだっぴであったため、プログラム作成は、現役の小学校教師の方にも入って頂き、小学生が飽きない次のような工夫を行って実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学生キャストによる事前訪問→小学生と大学生との関係性構築と小学生の心の準備</li> <li>・ 45分+休憩+45分というプログラム構築で普段の授業間隔で実施</li> <li>・ アイスブレイクの回数増</li> </ul> <p>洪水という被災経験をどう思うかというトークテーマを学校の要望もあり、取り入れたが、子どもたちも地域の方も今の気持ちと当時の気持ちを素直に話されていて、特にこのような機会が必要とされていることが強く感じられた。また、終了後の温かな雰囲気はキャストスタッフにとっても忘れられない経験になった。</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	
課題・展望	
<p>被災地のコミュニティ再生という意味でも個々の心の回復という意味でも、継続的な開催が望まれる。継続的な開催の形を作るために、地域の高校と連携した開催を模索していく。それにより地域内の他の学校からの要望にも応えられるようにしていく。</p>	

### 13. 広報・ファンドレイジング

ファンドレイジングのプロボノチームを組織し、計画の見直しや方策のアイデア出しを行った。組織外の目線から考えることができ、(ファンドレイジングにつながる)中学生だっぴプログラムの改善もできた。

# 活 動 計 算 書

[税込] (単位: 円)

特定非営利活動法人だっぴ

自 平成31年 4月 1日 至 令和2年 3月31日

【経常収益】		
【受取会費】		
正会員受取会費	140,000	
賛助会員受取会費	934,962	1,074,962
【受取寄付金】		
受取寄付金		580,256
【受取助成金等】		
受取助成金		588,710
【事業収益】		
自主事業収益	494,801	
受託事業収益	10,376,184	10,870,985
【その他収益】		
受取 利息	52	
雑 収 益	99,430	99,482
経常収益 計		13,214,395
【経常費用】		
【事業費】		
(人件費)		
給料 手当(事業)	9,074,405	
法定福利費(事業)	784,597	
人件費計	9,859,002	
(その他経費)		
業務委託費(事業)	3,575,826	
諸 謝 金(事業)	475,510	
印刷製本費(事業)	1,342,976	
会 議 費(事業)	231,394	
広告宣伝費(事業)	81,470	
旅費交通費(事業)	669,297	
通信運搬費(事業)	60,207	
消耗品 費(事業)	18,306	
賃 借 料(事業)	81,804	
租税 公課(事業)	1,800	
研 修 費(事業)	10,130	
支払手数料(事業)	8,801	
その他経費計	6,557,521	
事業費 計		16,416,523
【管理費】		
(人件費)		
給料 手当	401,625	
法定福利費	92,220	
福利厚生費	27,290	
人件費計	521,135	
(その他経費)		
印刷製本費	36,300	
諸 謝 金	15,000	
旅費交通費	27,460	
車 両 費	660	
通信運搬費	42,363	
消耗品 費	135,545	
修 繕 費	10,800	
地代 家賃	360,000	
賃 借 料	21,780	
諸 会 費	10,000	
リース 料	69,984	
租税 公課	1,450	
支払手数料	111,761	
雑 費	306,486	

# 活 動 計 算 書

[税込] (単位：円)

特定非営利活動法人だっぴ

自 平成31年 4月 1日 至 令和2年 3月31日

その他経費計	1,149,589		
管理費 計		1,670,724	
経常費用 計			18,087,247
当期経常増減額			<u>△ 4,872,852</u>
税引前当期正味財産増減額			<u>△ 4,872,852</u>
当期正味財産増減額			<u>△ 4,872,852</u>
前期繰越正味財産額			10,737,004
次期繰越正味財産額			<u>5,864,152</u>

# 貸借対照表

特定非営利活動法人だっぴ  
全事業所

[税込] (単位:円)  
令和2年 3月31日 現在

		《資産の部》	
【流動資産】			
(現金・預金)			
現金	51,400		
普通預金	6,289,263		
ゆうちょ普通	(2,478,979)		
ゆうちょ振替	(894,184)		
ゆうちょ5050	(4,785)		
中国銀行	(2,911,315)		
現金・預金計	6,340,663		
(売上債権)			
未収金	427,700		
売上債権計	427,700		
流動資産合計		6,768,363	
資産合計			6,768,363
		《負債の部》	
【流動負債】			
未払金	905,062		
預り金	△ 851		
住民税	(400)		
社会保険	(△ 74,022)		
所得税	(71,542)		
源泉徴収税	(△ 1,821)		
その他補助	(3,050)		
流動負債合計	904,211		
負債合計			904,211
		《正味財産の部》	
前期繰越正味財産		10,737,004	
当期正味財産増減額		△ 4,872,852	
正味財産合計		5,864,152	
負債及び正味財産合計			6,768,363

## 財務諸表の注記

特定非営利活動法人だっぴ

令和2年 3月31日 現在

### 1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

#### (1). 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

### 2. 事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下の通りです

科 目	(1) 若者の人材育成と社会、働き方、生き方を考えるための交流会事業	(2) 進路や働き方に悩む若者が自分らしい一歩を踏み出すための企画・実施事業	(3) 活動を広く知らしめ、啓蒙するための啓発事業	(4) その他、本法人の目的を達成するために必要な事業	合 計
<b>【人件費】</b>					
給料 手当(事業)	9,074,405	0	0	0	9,074,405
法定福利費(事業)	784,597	0	0	0	784,597
人件費 計	9,859,002	0	0	0	9,859,002
<b>【その他経費】</b>					
業務委託費(事業)	1,817,826	1,758,000	0	0	3,575,826
諸 謝 金(事業)	148,887	175,112	151,511	0	475,510
印刷製本費(事業)	230,856	982,120	0	130,000	1,342,976
会 議 費(事業)	5,841	80,683	0	144,870	231,394
広告宣伝費(事業)	150	0	9,460	71,860	81,470
旅費交通費(事業)	382,656	82,346	97,697	106,598	669,297
通信運搬費(事業)	6,630	84	1,123	52,370	60,207
消耗品 費(事業)	17,161	843	108	194	18,306
賃 借 料(事業)	81,804	0	0	0	81,804
租税 公課(事業)	0	1,800	0	0	1,800
研 修 費(事業)	7,130	0	0	3,000	10,130
支払手数料(事業)	3,030	2,853	1,610	1,308	8,801
その他経費 計	2,701,971	3,083,841	261,509	510,200	6,557,521
合 計	12,560,973	3,083,841	261,509	510,200	16,416,523

### 3. 使途等が制約された寄付等の内訳

使途等が制約された寄付等の内訳は以下の通りです。

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
岡山ESDプロジェクト活動支援助成金	0	50,000	50,000	0	進路や働き方に悩む若者が自分らしい一歩を踏み出すための企画・実施事業の助成金
社会教育館関係団体による地域パワーアップ事業	0	200,000	200,000	0	"
福武教育文化振興財団教育文化活動助成金	0	300,000	300,000	0	活動を広く知らしめ、啓蒙するための啓発事業の助成金



# 財 産 目 録

特定非営利活動法人だっぴ  
全事業所

[税込] (単位: 円)  
令和2年 3月31日 現在

		《資産の部》	
【流動資産】			
(現金・預金)			
現    金	51,400		
普通 預金	6,289,263		
ゆうちょ普通	(2,478,979)		
ゆうちょ振替	(894,184)		
ゆうちょ5050	(4,785)		
中国銀行	(2,911,315)		
現金・預金 計	6,340,663		
(売上債権)			
未 収 金	427,700		
売上債権 計	427,700		
流動資産合計		6,768,363	
資産合計			6,768,363
《負債の部》			
【流動負債】			
未 払 金	905,062		
賃借料	(187,000)		
未払い委託費	(20,000)		
給与3月分	(548,250)		
社会保険料3月分	(149,812)		
預 り 金	△ 851		
住民税	(400)		
社会保険	(△ 74,022)		
所得税	(71,542)		
源泉徴収税	(△ 1,821)		
その他補助	(3,050)		
流動負債合計		904,211	
負債合計			904,211
正味財産			5,864,152

前事業年度の年間役員名簿

(平成31年4月1日から令和2年3月31日)

特定非営利活動法人だっぴ

No.	役職名	氏名	住所又は居所	就任期間	報酬の有無
1	代表 理事	かしはらたくし 柏原拓史		自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日	報酬なし
2	副代表 理事	ふじいひろや 藤井裕也		自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日	報酬なし
3	理 事	なかまなかこ 中前貴子		自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日	報酬なし
4	理 事	むらなかゆき 室貴由輝		自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日	報酬なし
5	理 事	もりわけしげく 森分志学		自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日	報酬なし
6	監 事	みやざきいらいち 宮崎栄一		自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日	報酬なし